



ims

通信

2026年 6月号

梅雨がもうそこまでやってきておりますが、お変わりございませんか。

梅の日(6月6日)の由来は？

「梅の日(6月6日)」とは、和歌山県の田辺市やみなべ町などの自治体や“JA”および「紀州梅の会(紀州田辺うめ振興協議会)」が制定し、日本記念日協会に申請。2006年6月に登録された。もともとは、室町時代の故事に由来する。この時、天文14年(1545年)春先、日本中で晴天が続き、作物も育たず、田植えもできない状況であった。同年4月17日(新暦6月6日)、京都・加茂神社の例祭で、後奈良天皇が梅を奉納して祈ったところ、たちまち雷鳴とともに大雨が降り始め、五穀豊穡をもたらしたと言われています。

梅干が酸っぱい訳は？

梅の実には、数種類の酸っぱい成分、すなわち酸味が含まれていて、レモンに代表されるクエン酸は、レモンの5~6倍含まれています。手のひら全体に乗るレモンに比べ、手のひらの真ん中にちょこんと乗るような梅の実。それなのに、遥かに多くのクエン酸を含んでいるのですから、酸っぱくて当たり前なんです。しかも梅干は、塩漬けすることにより、リンゴ酸、コハク酸、酒石酸と言った酸味を多量に含んだ「梅酢」と呼ばれる水分が表面に流れ出て、さらにその中に漬け込まれることになります。そして、天日干しによって今度は水分がきれいに抜けてしまいます。酸味が凝縮され、益々酸っぱくなります。

梅の中に天神様がいる？

梅はバラ科サクラ属の植物で、プラム、ピワ、アーモンドなどはその仲間です。これらの種の中には硬い皮に包まれた白い中身があり、これを「仁(じん)」と言います。ところで、天神様と言えば、菅原道真公をさしますが、彼が梅を好んだことから、彼の死後、信仰の対象になるにつれて、梅の実の「仁(じん)」も、天神様と言われるようになりました。俗に、「梅は食うとも核食うな、中に天神寝てござる」と言って、生梅の種は食べるなという諺(ことわざ)ですが、梅干の核は処理の過程で毒素は無毒化されているので心配はありません。

クエン酸を筆頭に、有機酸とよばれるこの梅干の酸っぱさは、私たちの体に様々な効果をもたらします！
がん予防に効果のあるビタミンB17も豊富に含まれているので
できるだけ酸っぱい梅干を食べ、天神様も食べましょう！

【七十二候】

七十二候(しちじゅうにこう)は、二十四節氣をそれぞれ3つずつの季節に分けたもので1年では72の季節になります。自然に目を向けると、四季折々の季節の移り変わりを感じることができます！毎月一緒に季節の移り変わりを感じましょう！

《今月の七十二候》2026年6月16日(火)~6月20日(土) 梅子黄(うめのみきばむ)

青々と大きく実った梅の実が、黄色く色づき始めるころとなりました。
“梅の実が熟す頃の雨”ということから「梅雨」になったとも言われ
梅雨時である陰暦5月を「梅の色月」と言い表した美しい言葉も残っています。



インスタ、ブログははじめました！
ims社員の日々の出来事やつぶやき
情報提供など様々な内容を
配信しております!!毎日更新中！
下記よりご覧いただけます！

災害時・緊急時含め弊社から
情報提供をさせていただきます。
メールアドレスご登録の際は、
本文へお名前(フルネーム)を
ご入力下さい！

ブログ



弊社HP



インスタ



メールアドレス



〒239-0835横須賀市佐原1-10-1
有限会社 ims (アイエムエス)
TEL:046-838-5522 FAX:046-838-5533